雪中に糸となし、雪中に織り、
雪水に洒ぎ、雪上に晒す。
雪ありて縮あり、されば越後縮は
雪と人と気力相半ばして名産の名あり、
魚沼郡の雪は縮の親といふべし。
（鈴木牧之「北越雪譜」）

ユネスコ無形文化遺産
越後上布

越後上布は、越後縮（ちぢみ）とも呼ばれ、苧麻（ちょま）という植物の繊維を原料としています。通気性に富み、軽く、さらりとした感触で蒸し暑い日本の夏に最適な織物です。

原料となる苧麻（ちょま）は乾燥に弱く、上布を作製するには常に多くの湿気が必要となります。大量の雪に覆われ、農作業のできない冬の手仕事として、この南魚沼の地は越後上布の製造に適していました。雪の中から生まれ、雪国の人々と、その文化とともに育った織物といえます。

昭和30年に国の重要無形文化財に指定され、さらに平成21年には、ユネスコ無形文化遺産代表一覧にも登録となり、世界がその技術を認めています。

多くの工程を経て完成する越後上布。その中でも重要無形文化財の指定要件は次のとおりです。

- すべて苧麻（ちょま）を手績（てう）みした糸を使用すること
- 絣（かすり）模様をつける場合は、手くびりによること
- いざり機で織ること
- しぼとりをする場合は、湯もみ、足ぶみによること
- さらしは、雪ざらしによること

UNESCO Intangible Cultural Heritage
Echigo-jofu (textile)

Echigo-jofu textile is made from the pith of the “Choma” plant (ramie). Choma breathes well and has a smooth texture, therefore it is well-suited for humid summer in Japan. Echigo-jofu textile is carried out during the winter when people cannot farm in the deep snow in Minamiuonuma. The textile is said to be born in the snow and raised with people in snow country and its culture. It was designated as an important intangible cultural property in 1955, and registered on the Representative List of Intangible Cultural Heritages by UNESCO in 2009; it is recognized its technology by the world.

塩沢紬
塩沢紬は、越後上布の技術を絹織物にとり入れたもので、1764~71年のころに創られたと伝えられています。

苧績（おう）み

水に浸して柔らかくした青苧（あおそ）を爪で細くさいて、その糸先をより合わせてつないで、均一の太さにしていく作業です。

絣（かすり）くびり

図案を基に作られた木羽定規か紙テープを用い、墨（印）付けをし、くびり糸で固く巻いて染織します。くびられた部分が白く残り絣（かすり）ができます。

いざり機（地機）

いざり機（地機）は原始的な織機で、織り子は機とつながった腰当てを腰にまわして、腰を後ろにひいたり、前かがみになったりし、織り込んでいきます。

いざり機は織る位置が地面に近く、その分湿度を多く吸収できるため、麻織りに適しています。

湯もみ・足踏み

糊や汚れを落としながら布を柔らかくし、布目を詰まらせるための作業です。

雪ざらし

2月から3月ころ、天候のよい日に上布を雪上に広げてさらします。太陽熱で雪が解け、水分が布目を通って蒸発するときにオゾンが発生することで、布を白くします。天然の漂白作用であるこの雪ざらしは、この地に春を告げる風物詩となっています。

着物に仕立てられ、人の手に渡った上布が、再びこの地に戻ってくることがあります。長年着用し、染みついた汚れを、雪ざらしできれいにするためです。これを昔の人は、愛情をこめ「越後上布の里帰り」と呼びました。